

科目	臨床体表解剖学	担当	飯塚 照史	履修学年	1年
時間数	90分×時限×16回(週1回)	履修区分	必修	単位数	1単位

【授業目標・到達目標】

体表解剖学では主に筋骨格の触診を通じて、解剖学・生理学の理解を深める。到達目標は、①体表から筋・骨格構造を説明できる、②基本的な関節運動が起きる仕組みを説明できる、③関節運動の改善を主目的とする評価・治療の流れを理解し説明することができる、の3つである。

【履修注意】

- ・体表面の触診を行うため実習可能な服装を着用すること。
- ・予定変更の場合がある。

【評価方法】

①実技試験

②小テスト

③出席状況(講義回数の2/3以上の出席に満たない者は評定対象から除外する)

※①の合格を以て、②③を加えた総合的な評定とする。

【試験について】

・小テストおよび実技試験を実施する。

再試験対象者の条件:小テスト得点の平均が4割以上6割未満の者

※小テスト得点の平均が4割未満の者は評定対象から除外する。

【予習・復習】

・解剖学、生理学における関連部分(筋骨格の名称・作用・神経系の機能など)を復習しておくこと。

【教科書】

指定しない。配布資料にて行う。

【参考書】

【その他の注意事項】

【授業計画・内容】

回数	項目	内容
1	オリエンテーション・基礎知識	機能解剖基礎・触診基礎・治療との関連
2	骨格の触診1	体幹・脊柱
3	骨格の触診2	肩関節・肩甲帯・治療応用
4	骨格の触診3	上腕骨・肘関節・治療応用
5	骨格の触診4	前腕・手関節・治療応用
6	骨格の触診5	手指・治療応用
7	骨格の触診6	股関節・膝関節・治療応用
8	骨格の触診7	足関節・体幹・治療応用
9	中間まとめ	前半の復習・確認・まとめ
10	骨格筋の触診1	体幹・脊柱・肩関節・治療応用
11	骨格筋の触診2	肘関節・治療応用
12	骨格筋の触診3	手関節・治療応用
13	骨格筋の触診4	股関節・膝関節・足関節・治療応用
14	骨格筋の触診と動作1	触診を用いた動作分析:日常生活
15	骨格筋の触診と動作2	触診を用いた動作分析:歩行
16	期末試験	15コマの復習・確認・総まとめ